

# 教育機能の地域化による 人材還流・育成と郷づくり

～若者に選ばれる、若者が集う島～



**海士町について**



## 島の交通

本土から高速船か  
フェリーで約2～3時間。

冬場は季節風が強く吹き荒れ、船  
が欠航して孤島化することも珍しく  
なく、地理的ハンディキャップは大  
きい。

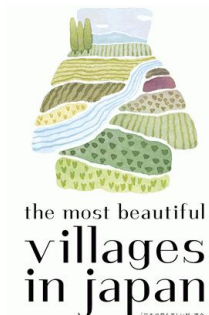
# 海士町

(海のサムライと書いて「あま」と詠むべし)

日本海の島根半島沖合約60Kmに浮かぶ  
隠岐諸島の中の一つ中ノ島を「海士町」と  
いい1島1町の小さな島。

(面積33.46km<sup>2</sup>、周囲89.1km)

- 1963年 大山隠岐国立公園指定
- 1985年 「天川の水」日本の名水百選指定
- 1997年 海域公園指定(環境省)
- 2009年 日本で最も美しい村連合加盟
- 2013年 【隠岐】世界ジオパークに認定



## 島後

隠岐の島町  
約14,000人



## 島前

西ノ島町  
約2,900人



知夫村  
約600人

海士町(中ノ島)  
約2300人

# ひとづくりからのまちづくり

## 教育の魅力化 × 地域の活性化

### 隠岐島前高校魅力化プロジェクト

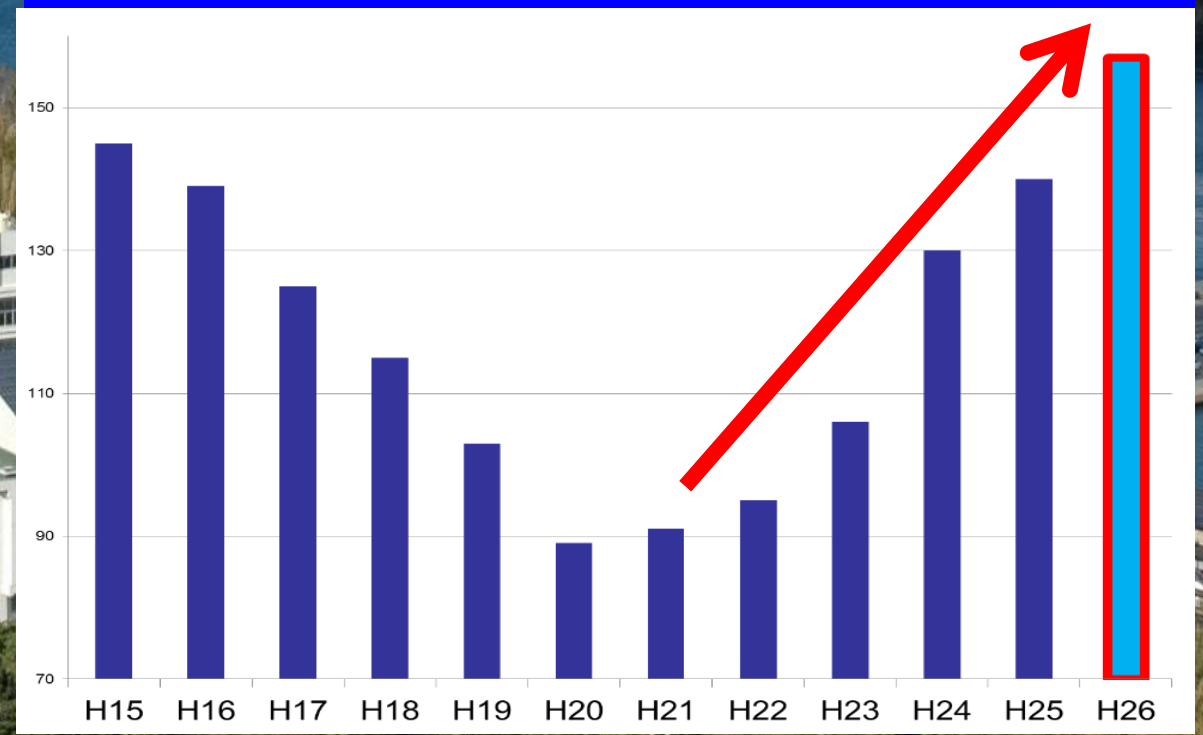
島前高校魅力化  
プロジェクト発足

島だからできない



島だからできる  
教育へ

超少子高齢化の地域で異例の  
生徒増・学級増・教職員増・部活増





地域の「先生」で足りない部分は国内外ともつなぐクラウドでの教育コンテンツなども活用

歴史・芸能

自然・環境

農業・漁業・  
林業・畜産業

ものづくり

医療

教育・子育て

行政・政治

科学・研究

福祉

商業・経営

文化・  
暮らし

観光



島全体が「学校」、地域の方も「先生」。  
ICTも活用しグローバルに学ぶ。



# 極上の島留学

自分らしく生きられ

したことのない体験や

ステキな人にたくさん出逢える

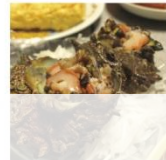
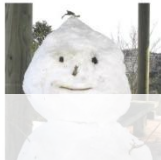
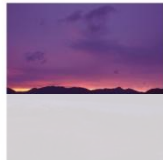
この島で、最幸の高校生活をすごしませんか



学力+人間力保障

寮費も全額補助

限定10人募集中



ようこそ 島留学



島留学は、島で生活しながらの勉強と、島民と交流する機会が豊富です。また、島で生活することで、自然環境や文化の理解が深まります。詳しくは、島留学のウェブサイトをご覧ください。

## 全国から意志ある脱藩生を募集

### 多様性を持ち込み活性化を



# 学校地域連携型公立塾 隠岐國学習センター





# 島前高校魅力化に長年携わって感じたこと



一般財団法人 Dozen Furusato Miryokuka Foundation  
島前ふるさと魅力化財団

## これまでの取り組み

- 隠岐島前高校魅力化PJの発足
- 島留学制度の創設(推薦入試倍率2倍)
- 生徒数V字回復(2クラス化・教員増)
- 隠岐國学習センター(公設塾)
- 三燈寮(生徒による自治寮)



高校の魅力が向上したことにより  
廃校の危機を脱する

## 地域の現状

- 島前高校の教育魅力化プロジェクトによって、注目され島外からの生徒数が増えた一方で、卒業生が島に戻ってくる数(Uターン者数)が増えている訳ではない?

若者減少

人手不足

後継者不足

学校教育は地域との協働によって魅力的になったが、  
地域に目を向けてみると、産業・福祉などを支える地域人材の輩出には繋がっていない?

なぜ?

# まずは卒業生に聞いてみた



一般財団法人 Dozen Furusato Miryokuka Foundation  
島前ふるさと魅力化財団



2019年関東家督会(家督会青年部)@日本橋



卒業生たちにヒアリングを実施： Q, Uターンすることや自身と島との関係性についてをどう思う？

## A, 卒業後の繋がりの希薄化

在校時に特にお世話になっていた人は、学校の先生、学習Cスタッフ、島親や地域の方。卒業後に島を訪れても知っている人がいなかったり、声をかけずらかったり。

→年々繋がりが薄くなりいずれ失くなる

## A, 情報がない

情報量が少なく、就活や転職を機に調べようと思っても、そもそも魅力的な仕事や暮らしの情報を手に入れることができない。

→情報の少なさや透明性が地方の課題

## A, Uターンへのハードル(見えない壁)

Uターンしようと思い島の人に相談すると、「お前はまだ早い。都会で稼げるようになってから即戦力として帰ってくればいい。」と言われ、島に帰るのはハードルが高いという印象。まちづくりには安易な気持ちで関わっちゃいけないんだ…

→新卒などの若者を育てる環境づくり



## ■ ヒアリングを踏まえて取組むべきこと

- 関わり続ける(関係人口の深化)
- 島の採用ニーズ等とのマッチング向上
- 情報発信力の強化または体制構築



## －反省点－

島の現状を知らない若者に対して  
「移住」や「定住」、「就職」をいきなり  
求めるのはハードルが高すぎた…

# 教育魅力化プロジェクトとその先へ



一般財団法人 Dozen Furusato Miryokuka Foundation  
島前ふるさと魅力化財団

## これまでの取り組み

- 隠岐島前高校魅力化PJの発足
- 島留学制度の創設(推薦入試倍率2倍)
- 生徒数V字回復(2クラス化・教員増)
- 隠岐國学習センター(公設塾)
- 三燈寮(生徒による自治寮)



高校の魅力が向上したことにより  
廃校の危機を脱する



新たな問い

教育への投資を  
地域にどう還元していくのか・・・?

## 新たな地域の課題

- 卒業後の繋がり希薄化(関係人口の消失)
- Uターンへのハードル(見えない壁)
- 19~30代前半の人口が少ない(生産人口の減少)
- 人手不足・担い手不足



教育「だけ」変わっても地域課題は解消されない



人材育成の島を目指して

卒業生や全国各地の意志ある若者たちが  
関わり続けたい島づくり

# 地域が直面している課題と対するアプローチ



一般財団法人 Dozen Furusato Miryokuka Foundation  
島前ふるさと魅力化財団

1  
若者  
流失

2  
人口  
減少

3  
人手  
不足

4  
担い手  
不足

5  
卒業生の  
Uターン  
が少ない

複雑に見える課題であるが共通しているのは「人材」面における課題ということ

アプローチ①

新しい人の流れの創出

人材の流動性・多様性を高める

アプローチ②

人の受入れ環境の整備

島の仕事・暮らしを用意する



離島が身近な場所に

# 大人の島留学



大人の島留学



島体験



## 滞在人口とは？

地域に仕事・学びなどを理由として**一定期間島に滞在し**、**地域に暮らしながら人や仕事、文化に触れている人**





令和五年度  
隠岐島前大人の島留学歓迎式



# 大人の島留学事業による滞在人口数（R2～R4）

## ■令和2年度

大人の島留学生（10～3月） 21名

うちR3年度就職が3名、延長が3名

R4年度就職が1名

## ■令和3年度

大人の島留学（4～3月） 14名

島体験生（4～6月）10名

（7～9月）10名

（10～12月）11名

（1～3月）9名

合計54名

うちR4年度就職が4名、延長が1名

また、知夫での就職が1名

## ■令和4年度

大人の島留学（4～3月）20名

島体験（4～6月）27名 ※うち17名が滞在を延長

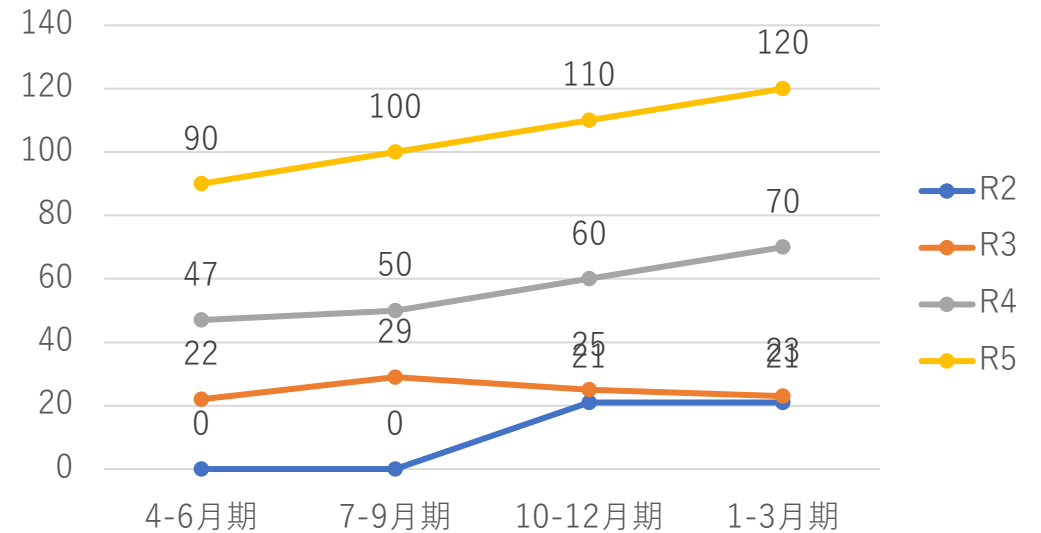
（7～9月）13名 ※うち5名が滞在を延長

（10～12月）20名

（1～3月）15名 ※予定

うちR5年度に20名程度が就職や延長を希望

（年度別）滞在人口数



## ■令和5年度(計画)

大人の島留学(4～3月)40名

島体験(4～6月)30名

島体験(7～9月)15名

島体験(10～12月)15名

島体験(1～3月)15名

複業島留学 20名程度

私  
島で働く



わたし、  
島で働く。



島体鼓



わたし、島で働く

# 私、島ではたらく

#自分の心地いい場所で暮らす



# 編集部

大人の島留学

より

「わたし、島で働く。」







大人の島留学



わたし、島で働く。

大人の島留学  
編集部より

消火器

「わたし、島で働く。」

編集部より  
大人の島留学

「わたし、島で働く。」



わたし、島で働く。



(有) 海士物産

本社 TEL(08514)2-0797  
0851-1114

わたし、  
島で働く。



星体験



私、  
島で働く

私、島ではたらく





卒業生は、今。





# 島の風景が変わりだした



# 大人の島留学を修了した今… #3



PHOTO BY AKAPON











# 伝統  
# かんこ舟  
# むずかしい





離島がきっと  
"ふつう"の場所になる

＼ 2泊3日 /  
**冬のお試し島留学**  
2月17日(金)～19日(日)



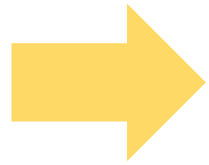


# 還流を起こすための要点



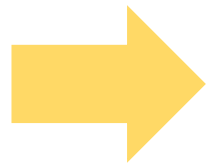
1、そもそも日本全体が人口減少化社会に向かっている中で、これまでのような単なる移住定住促進の動きは資本主義的過ぎる

(それぞれの自治体等で移住者の取り合いになる)



滞在人口を活用した地域経営を。(関係人口経営)

2、デジタル化社会において、多拠点居住・テレワークなど働き方等の多様化。  
また、若者のキャリア観にも変化が。



地方の価値観を一方的に押し付けるのではなく、都市部の人材を活躍させる心持ちで。

※移住定住・Uターン・・・田舎側の都合を押し付けるアプローチになりがち

顧客視点で事業・施策を思案する必要

も。

顧客

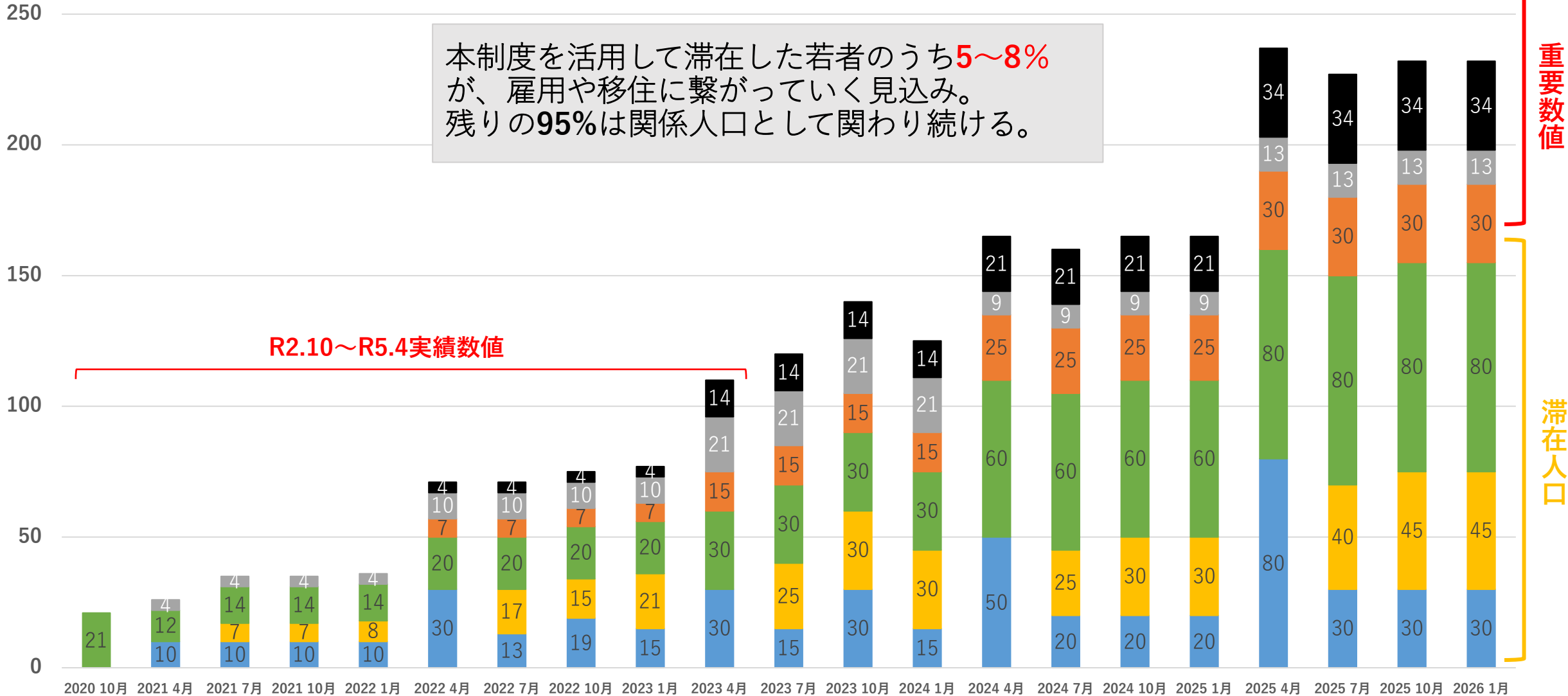


集客ターゲット(地域外の人)

# 滞在人口受け入れ計画（R2.10～R8.3）



■ 3ヶ月 ■ 延長者 ■ 1年 ■ 複業組合 ■ 本移住 ■ 還流人材



本制度を活用して滞在した若者のうち**5～8%**が、雇用や移住に繋がっていく見込み。  
残りの**95%**は関係人口として関わり続ける。

R2.10～R5.4実績数値

重要数値

滞在人口

※ 本移住：前年度までに大人の島留学を終え、就職などを通じた本移住した人 ※ 還流人材：本移住を選択し、その後（1年以上）も暮らしている人

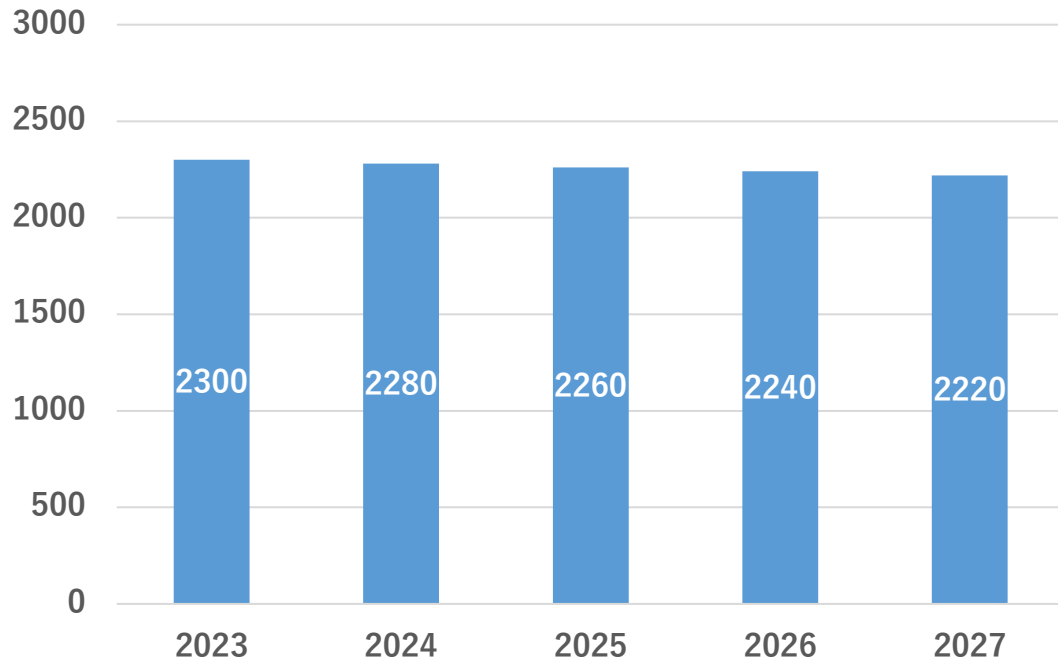
# 滞在人口戦略による島の人口計画

※海士町を例に。

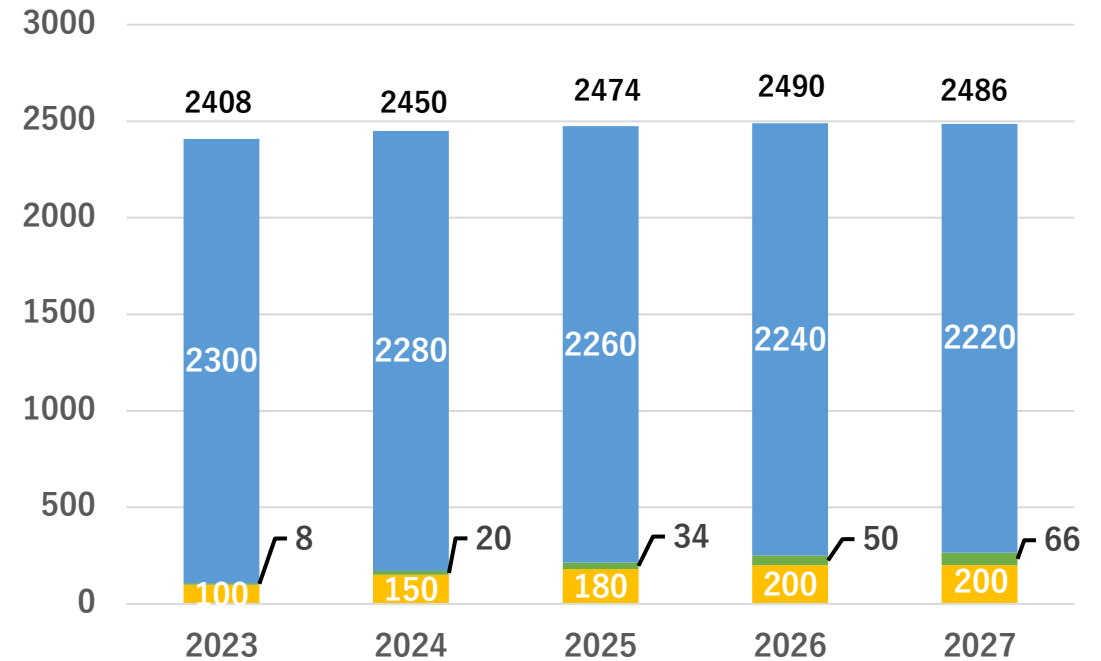


一般財団法人 Dozen Furusato Miryokuka Foundation  
島前ふるさと魅力化財団

(※1) 年間自然増減数 ▲25 年間社会増減数 +5 と仮定した場合



■ 定住人口



■ 滞在人口 ■ 就職者 ■ 定住人口

従

従来のように「定住人口」のみの人口属性となっている場合、自然減を補うだけの社会増を生み出すのが非常に困難となり、年間▲20人となる可能性が非常に高い。

(※1) と仮定した場合

新

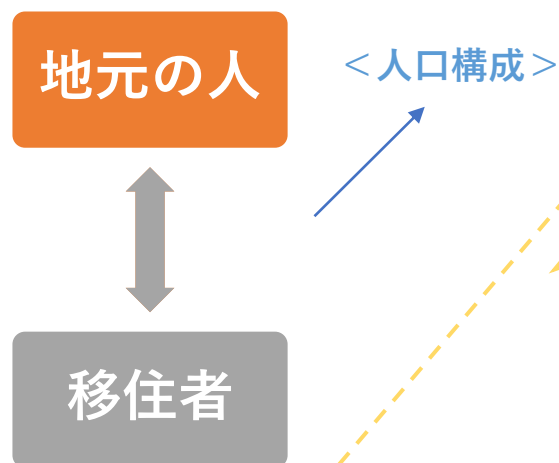
この5年間で大人の島留学事業を核としながら、新たに「滞在人口200人」が年間通じて滞在しているような新たな人の流れを創る。そのうちの5~8% (年間10~16人) が就職・移住をする見込み。年間+16人以上となることを期待し、受入れ環境の整備・人材確保等を計画していきたい。

# 滞在人口がもたらす効果

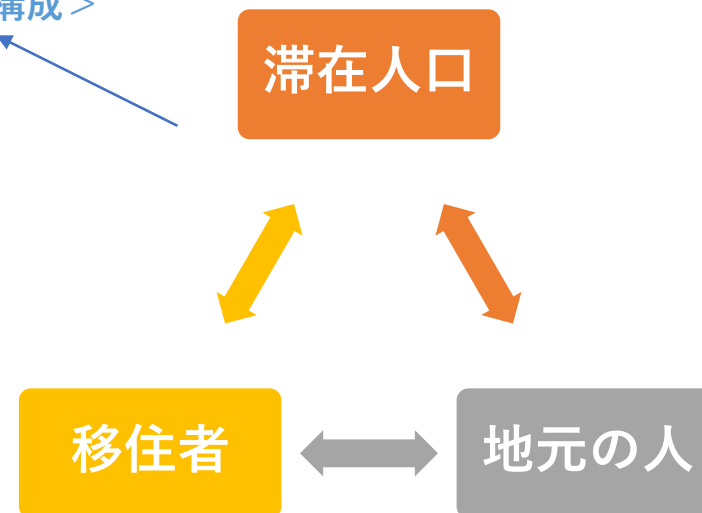


## これまでの地域

- 二項対立のような関係性
- 田舎特有の監視社会
- 「やりたい」より「やるしかない」
- 長くいる／やることが正義



<New 人口構成>



## 滞在人口がもたらす効果

- 地域や組織に**人の多様性**をもたらす  
→ 二項対立的関係性からの脱却
- 地域や組織に**人の流動性**をもたらす  
→ 地域や組織に新陳代謝を促し、若者の受け入れ力向上
- 若者の希少性を低下（バランス）させることで、**過ごしやすい島へ**  
→ **well-beingな島（若者が増えて高齢者もハッピー！）**

## 人口減少に歯止め

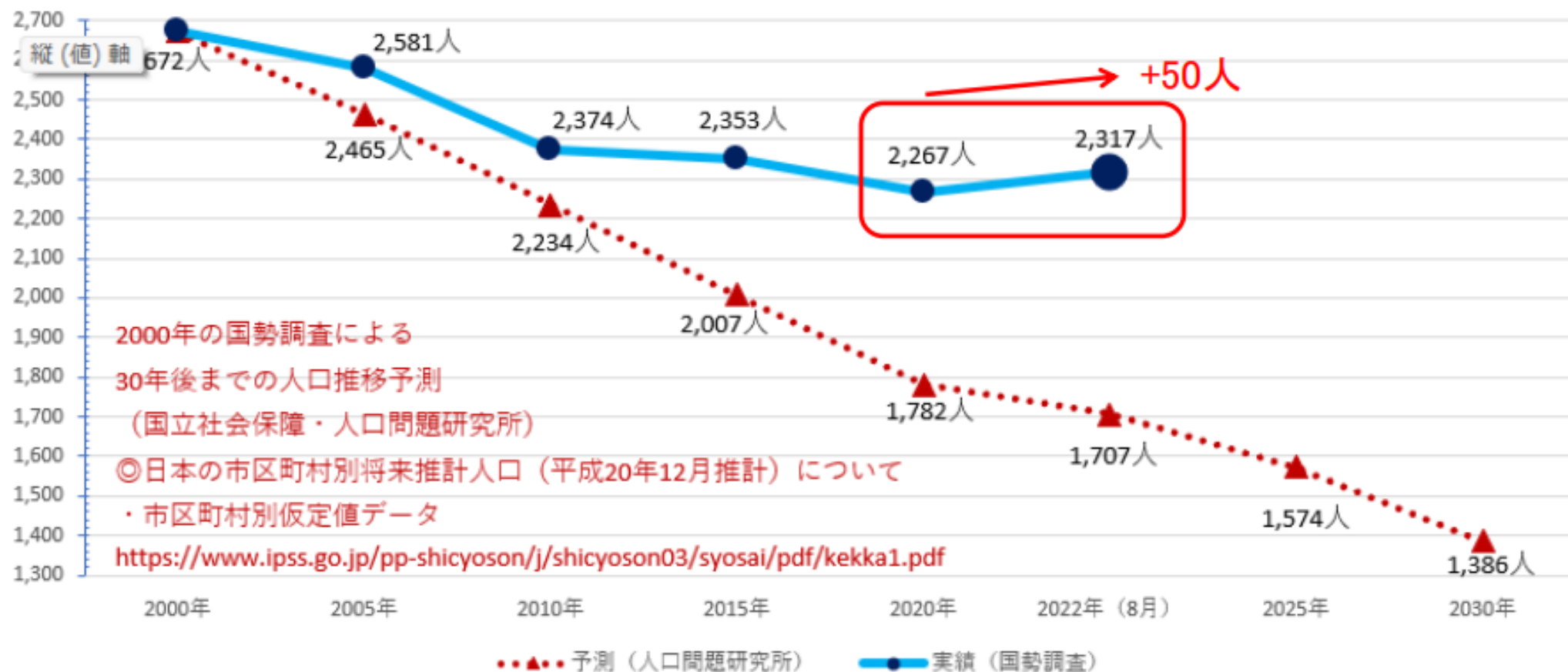
令和2年国勢調査  
(2020年10月)

令和4年島根県公表値  
(2022年8月)

**2,267人**



**2,317人**





令和五年度  
三岐島前大入学者歓迎式  
**離島にもっと若者の還流を！**

**ご清聴ありがとうございました！**

